

緩和ケアを在宅で受ける男性、
ベッドで一緒に寝るという猫、
いつもの光景だといふ



伊藤隼也
が行く
Vol. 52

大学病院の病棟で実績を積んだ
ベテラン看護師が訪問看護を学ぶ
「家」という視点が加わることで
退院支援はより充実すると思う



この日2回目の訪問看護。肝
トシを行った。失を覚えている
のは妻（奥で見る女性）の
たつての顔だった

伊藤隼也
が行く
Vol. 52

藤田医科大学

患者さんにも 帰る場所がある

伊藤隼也は今回、2013年に全国初となる学校法人による「居宅介護支援事業所」と「訪問看護ステーション」を開設した藤田医科大学病院（愛知県豊明市）を訪ね、看護部の新たな取り組みとその成果、課題を取材しました。

患者さんの傍らで眠る飼い猫、 病棟看護師が学ぶ訪問看護

伊藤 藤田医科大学病院では、地域と大学病院が連携した新しいまちづくりを進めていると聞いています。その一環として、病棟の看護師さんが半年間のローテーションで地域に出向し、訪問看護を学んでいるんですね。

小島 はい。2015年4月から始めている取り組みで、これまでに30人の看護主任や看護師が訪問看護を経験しました。今も3人がローテーションし、患者さん宅を訪問しています。

伊藤 先ほど訪問看護に同行取材した看護師さんは、精神科と脳神経外科にいたと聞きました。病棟とはまったく違う看護経験ができて、大きな学びになったのではないのでしょうか。

松下 そうですね。「在宅で暮らしてい

く上での思いやご家族の抱える不安や悩みなどを直接聞くことができました。自分らしくいきいきと暮らす姿を目の当たりにし、改めて退院支援の重要性を実感した」と話しています。

伊藤 僕は前から地域医療には大きな関心を持っていたのですが、やはり病気があっても自宅で過ごせるっていいですね。取材で訪ねたお宅で印象的だったのは、がんを患う男性の傍らに白い飼い猫がいて、手足を伸ばして気持ちよさそうに眠っていたこと。あんな光景は病院では見られません。これこそ、わが家にいること。なんだなあ、と、つくづく感じました。

松下 ご主人と奥さま、息子さんの3人暮らしのご家庭で、「自宅」に帰られたのは10日間。それまでは当院の緩和病

棟に入院されていました。在宅でケアを受けたいというのは、奥さまのたつての希望です。

伊藤 訪問診療は地元の在宅医が、松下 いえ、当院の緩和ケア医が訪問して診ています。入院中と同じ医師が担当だとご主人も安心されるようで、医師が訪問するにつれて安心されます。

伊藤 いいですね。まさに切れ目のない医療、看護です。

松下 訪問看護師も緩和ケア医も大学病院のスタッフなので、垣根が低いといえます。何かあったらすぐに院内連携に連絡して「こんな状態ですが、どうしますか」と聞くことができます。

伊藤 なるほど、タイムラグが生じにくいのは、患者さんやご家族にとってもありがたいですね。

人材の育成と高いレベルでの医療看護サービスの提供を目指す

伊藤 それにしても、急性期病院である大学病院が地域に出ていくという発想は、とても興味深い。いつから始めている取り組みなのでしょう。

藤田医科大学病院
看護部部長

小島 菜保子さん

1999年、聖隷学園看護専門学校卒業後、藤田医科大学病院へ就職。2013年、同大学地域包括ケア中核センターに配置となり、介護支援専門員資格取得。訪問看護ステーションの立ち上げ、まちかど保健室の運営に携わる。2018年より現職。

藤田医科大学病院看護部
福祉推進課長

大上 美香子さん

1999年、育生会看護専門学校看護学部高等看護科卒業後、藤田医科大学病院へ就職。2015年、藤田医科大学地域包括ケア中核センター訪問看護ステーションに配置。2018年より現職。

藤田医科大学地域包括ケア
中核センター看護科長

松下 寛代さん

1994年、藤田医科大学看護専門学校卒業後、同大学病院へ就職。2007年、摂食・嚥下障害看護認定看護師の資格取得。2015年、公益社団法人愛知県看護協会へ出向。2018年より現職。

問われています。母体が大学病院なので、がんの緩和や在宅療養など、医療依存度の高い患者さんや、精神疾患を患う人が多くなります。

伊藤 学校法人としては全国初の試みだと聞いています。センターを設立した経緯を教えてください。

小島 国は今、社会保障・税一体改革を進めています。退院後の在宅ケアについては人材不足など、多くの問題を抱えています。患者さんが退院後も安心して暮らすのを継続できるような医療・看護・介護サービスの連携強化、急性期から在宅・施設へのスムーズな移行など、行政の協力の元で教育機関の使命としてできることはないかということで始まったと聞いています。

